

平成 29 年度 第 2 回山梨県職業能力開発審議会 議事録

日時：平成 29 年 11 月 8 日(水) 午前 10 時 00～11 時 20 分

場所：県庁防災新館 201 会議室

【委員】

賛成という立場ではありますが、二つほど意見を述べさせていただきます。大きな課題として山梨県内の少子高齢化が進んで、労働力が不足しているということが産短大への求人の倍率に顕著に表れているのではないかと思います。定員割れが続いている二つの学科に対して、10 倍を超える求人が来ているということは、人は足りないけど、なかなかそこに供給できていないということかなと思っております。そういう中で二つ意見を述べさせていただきます。一つは、やっでは頂いてはいるのですが、高校の進路指導の中でどのタイミングでどの生徒に産短大を進めるのかというところを強化していく必要があるのではないかとということです。年一回進路指導担当や3年生の担任にやっでは頂いていますが、回数を増やすとか、タイミングを変えるとか、いつ誰がどのようにというような視点で強化をして頂きますようお願い申し上げます。もう一つは、高等教育の無償化ということで国も動いている中で、文科省と厚労省の管轄の中でも制度が違うということも違和感があるので、給付型とまでは言わないが、少なくとも無利子の奨学金制度は県の予算の中で早期に実現して頂きたいということです。学生に少しでも負担が少なく産短大を選んで頂いて、県内の企業に有能な人材を引き続き輩出していく努力をして頂きたい。

【委員】

先ほどの意見をさらに強調したいのですが、国公立の大学は私立の大学に比べて学生をお客様として扱う意識が薄いということがよく言われる。その点私立大学は力を入れている。今後は、学生にターゲットを当てていくということが必要になると思う。A3 資料の最後の方にある広報について、誰に何をどのタイミングでするかということを、もう一度見直して頂いて、その中で学生にターゲットを当てた戦略的な広報をお願いします。もう一つは経済的な問題は根底にあります。文科省系との経済支援の格差を、他県とも連携して国に要望して行って欲しい。やはり如何に学生に PR するかが大事で、そして親に対しては経済的な面を早急に対応して、現状の形で存続をお願いしたい。

【委員】

観光ビジネス科について、定員の充足率は良いが、求人倍率が3.2倍ぐらいしかない。しかも関連企業への就職も65パーセントで去年も半分ぐらいしかない。要するにバランスがとれていない。こここのところをもうちょっと検討していただいて、人を県内に定着させるということを考えて頂きたい。それと富士東部地域への設置も検討していくということだが、地域的なバランスというのはどういう意味で書かれたのか教えて頂きたい。

【事務局】

塩山にはあるが、都留にはない。富士東部地域から塩山に通学する学生は少ないといったことも踏まえて検討していくということ。

【委員】

答申の概要を拝見し、わかりにくかったところを申し上げたいと思います。「教育内容の現状と課題における検討結果」について、「常に技術革新や産業構造の変化に柔軟に対応できる仕組みを検討することが重要」の記載ですが、この「仕組み」というのが、「例えば教育内容やカリキュラム・教育課程の検討をする仕組みを構築することが重要」というように拝見しましたが、一読するとわかりにくいような気もするので、わかりやすくなるよう記載の修正をご検討頂きたいと思います。

【委員】

自身の仕事の関係で、高校へ伺い模擬面接を教員の方と共に行う機会がある。その経験から申しま

すと、同じ学校でも進路指導の先生が変われば、熱意の度合いがだいぶ変わります。それで、こちら側の熱意は伝わるという気持ちで、根気よく進めていただく必要があると思いました。もう一点は入試制度のところ、会社に在籍しながら学校に行くというような制度は望みがあるのではないかと思います。

「答申案 P.23 5 入試制度（主な意見）『県内の中小企業と～』」の記載について、強化しても良いのではないかと考えた次第です。

【委員】

答申の内容につきましては賛成という立場でお話しさせていただきたいと思います。文科省、厚労省の縦割り行政等が原因で、学生が受ける公的サービスにバラツキがあってはいけない。経済的理由で学べないということが無いように、ここの部分は県に対して強く要請して頂きたい。もう一点、学生の要望として2年制よりも4年制を希望する子が多いのではないかと思います。2年制を残した中で、4年制についても前向きに検討を進めて頂きたいと思います。

【委員】

就職活動でもよく耳にしたことがある会社に人は集まる。そういう点からも、県内の人たちに認知をして頂くというところから進めていって頂きたい。もう一つは県立大学の中に4年制を含めた工学系の設置というの視野に入れながら考えていって頂きたい。

【委員】

経済的支援ということで、山梨大等の4年制大学に通うよりも、2年制の方が早く実践の場に出られるため経済的負担が少ないというところを利点としてアピールしてみるというのもいいのではないかと思います。

【委員】

A3 資料の現状と課題における教育内容について、「学生の主体性を尊重する教育を行う」とか、「自ら学び成長することができる人材を育成する」というところを検討していただいてありがとうございます。学生のうちに、人と人の上に立つことは困難だと思うが、困ったことがあったら周りに相談するとか、自分の中で抱え込まないことができるような教育を取り入れて頂けたらいいと思います。

【委員】

技術革新への対応については、新しい機械を学校に導入して、それを学生が使えるようにすることについて、県として後押しをして頂きたい。これは広報活動にもなる。全面的に大学校をバックアップして欲しいと共に、経済的な問題についても皆で応援する形を取って欲しい。

【議長】

経済的支援の面で、現在内閣府が大学に対し、出世払いという制度設計を検討しているが、国の施策に歩調を合わせる形で、産短大の学生についても適用されるべきであると思いますし、県がそういった働きかけをするべきであるということ、ここにもう一項目書き足して頂けないでしょうか。それから、産業技術短期大学の校長先生にお伺いしたいのですが、課外活動はどれくらい充実しているのでしょうか。

【校長】

厚労省の基準で授業時間が非常に多くなっており、課外活動については、昼休みに学生が主体的に集まって体育館で運動したり、文化的な活動で集まったりはするが、授業のあとでというのはなかなかできていない。これを補いたいということで、学園祭やスポーツ大会、その他科の中で行ういろいろな行事などでは学生中心で運営してもらい、そういうところで学生の主体的な動きを進めていこうとしています。